

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成26年6月19日(2014.6.19)

【公表番号】特表2014-510586(P2014-510586A)

【公表日】平成26年5月1日(2014.5.1)

【年通号数】公開・登録公報2014-022

【出願番号】特願2013-557702(P2013-557702)

【国際特許分類】

A 6 1 N 1/36 (2006.01)

【F I】

A 6 1 N 1/36

【手続補正書】

【提出日】平成26年3月28日(2014.3.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

【図1】本発明による、神経または組織を調節するデバイスの概略図であり、該デバイスは、導電性材料が充填された容積と連続的に接触する電極に、制御された電流のパルスを供給する。

【図2】図2Aは、本発明の実施形態に従う、神経の1つまたは複数の部分に印加される遮断および/または変調インパルスの例示的な電圧/電流プロファイルを例示する図である。図2Bは、本発明に従う、電気インパルスに対するパルスの単一のバーストを例示する図である。図2Cは、本発明に従う、パルスのバーストに対するON/OFFパターンを例示する図である。

【図3】図3Aは、本発明の実施形態による、二電極刺激器を例示する斜視図である。図3Bは、図3Aの二電極刺激器の、刺激器の電極および電子構成要素を示す切断図である。

【図4】図4Aは、図3Aで示される二電極刺激器の頭部の一実施形態の分解図である。図4Bは、図4Aの頭部の断面図である。図4Cは、図3Aに示される二電極刺激器についての頭部の代替の実施形態の分解図である。図4Dは、図4Cの頭部の断面図である。図4Eは、図3Aに示される二電極刺激器についての頭部の、別の代替の実施形態の分解図である。図4Fは、図4Eの頭部の断面図である。

【図5】図5Aは、本発明の実施形態による、二電極刺激器の代替の実施形態の上方からの斜視図である。図5Bは、図5Aの二電極刺激器の下方からの斜視図である。図5Cは、図5Aの二電極刺激器の断面図である。

【図6】患者の頸部の迷走神経を刺激するために電極が使用されるときの、本発明の一実施形態による、二電極刺激器の筐体のおよその位置を例示する図である。

【図7】電極が、患者の頸部の迷走神経を刺激するように位置付けられ、識別された解剖学的構造の近傍で頸部の表面に適用されるときの、本発明の一実施形態による、二電極刺激器の筐体を例示する図である。